青 病 防 第　７６ 号
令和８年１１月１３日

報道機関各位

青森県病害虫防除所長
（公印省略）

令和８年度病害虫発生予察情報 特殊報 第２号
（CABYVによるメロン病害）について

このことについて、令和８月年１１月１３日付けで発表したのでお知らせします。

報道機関用提供資料	
担当部署 担 当 者	青森県病害虫防除所 総括主幹　鈴木千秋
電話番号	直通　017-729-1717
所長　三浦　嘉浩	

令和８年度病害虫発生予察情報
特殊報　第２号

令和８年 11 月 13 日
青森県病害虫防除所

Cucurbit aphid-borne yellows virus（CABYV）による メロン病害の発生について

１　病原ウイルス　Cucurbit aphid-borne yellows virus（CABYV）

２　作 物 名　　メロン

３　発生経過

（１）令和８年８月に県内のメロン栽培ほ場において、メロンの葉に退緑及び黄化症状が確認された。症状から県内未発生であるウイルス病が疑われた。

（２）このため、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫部門に PCR 法による分析・鑑定を依頼したところ、Cucurbit aphid-borne yellows virus（CABYV）が確認され、同ウィルスによる感染が確認された。本県における本病害の発生確認は初めてである。

（３）本病害は国内では令和６年に京都府で初めて発生が確認され、これまでに滋賀県、福島県など８府県でキュウリ及びメロンでの発生が確認されている（令和８年９月現在）。

４　病徴

（１）本ウイルスに感染すると葉に退緑や黄化症状が発生し、症状が進むと株全体の葉が黄化する。本病害の病徴は、生理障害やウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）等のメロンに黄化症状を引き起こす他のウイルスの感染による病徴とよく似ていて判別は難しい。

（２）本ウイルスに感染した場合、着果不良により減収することが海外で報告されている

５　伝染方法

（１）本ウイルスは、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ等）によって媒介される。

（２）アブラムシ類が罹病植物を吸汁することによりウイルスを獲得し、死亡するまで伝搬能力を有するが、経卵伝染はしないとされている。汁液伝染、土壌伝染及び種子伝染は確認されていない。

６　寄主植物

国内で感染が確認されている作物はキュウリ、メロンである。

７　防除対策

ウイルスを媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。

（１）育苗時からアブラムシ類を防除し、ほ場に持ち込まないよう注意する。

（２）育苗施設では、育苗開始前に前作の残渣及び雑草を撤去し、育苗時にはアブラムシ類の防除を行う。

（３）施設栽培では、施設開口部に 0.8㎜ 目合い以下の防虫ネットを展張し、施設内へのアブラムシ類の侵入を防ぐ。露地栽培では、シルバーマルチやシルバーテープの利用により、アブラムシ類の飛来を抑制する。

（４）ほ場周辺の雑草は、アブラムシ類の発生源となるため、除草を徹底する。

（５）薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認する。アブラムシ類の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、薬剤は必ず異なる系統をローテーション散布する。ミツバチや天敵昆虫を利用している場合は、影響日数に注意して薬剤を選定する。
（６）発病株は直ちに抜き取り、ほ場外に持ち出して処分するか、土中に深く埋め込む等適切に処分する。


写真１　メロンの葉の黄化症状


写真２　ワタアブラムシ

【メロンのアブラムシ類に登録のある主な薬剤（令和８年11月４日現在)】

農薬の名称	IRACコード	有効成分	希釈倍数 使用方法	使用時期	本剤の使用回数	総使用回数
ベリマークSC	28	シアントラニリプロール	灌注:400株当り10～20L(1株当り25～50ml)	育苗期後半～定植当日	1回	1回
			株元灌注:400株当り20～200L(1株当り50～500ml)	定植直後	1回	
ジノテフラン粒剤＊	4A	ジノテフラン	株元散布:1g/株	育苗期	1回	3回以内(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
			植穴土壌混和:1g/株	定植時	1回	
ベストガード粒剤	4A	ニテンピラム	株元処理:1g/株	育苗期	1回	4回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内)
			植穴処理土壌混和:1～2g/株	定植時	1回	
ベストガード水溶剤	4A	ニテンピラム	1000～2000倍	収穫7日前まで	3回以内	
ダントツ粒剤	4A	クロチアニジン	株元処理;1～2g/株	育苗期後半	1回	4回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)
			植穴処理土壌混和:1～2g/株	定植時	1回	
			株元散布:1～2g/株	定植後 但し、収穫前日まで	3回以内	
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	8000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内
オリオン水和剤40	1A	アラニカルブ	1000倍	収穫前日まで	5回以内	5回以内
ダイアジノン水和剤34	1B	ダイアジノン	2000倍	収穫14日前まで	4回以内	4回以内(粒剤の生育期の処理は3回以内)
アグロスリン乳剤	3A	シペルメトリン	1000～2000倍	収穫前日まで	5回以内	5回以内
アグロスリン水和剤	3A	シペルメトリン	1000～2000倍	収穫前日まで	5回以内	
アディオン乳剤	3A	ペルメトリン	2000～3000倍	収穫前日まで	5回以内	5回以内
ロディー乳剤	3A	フェンプロパトリン	1000～2000倍	収穫前日まで	4回以内	4回以内
トレボン乳剤	3A	エトフェンプロックス	1000倍	収穫3日前まで	4回以内	4回以内
スカウトフロアブル	3A	トラロメトリン	2000倍	収穫前日まで	5回以内	5回以内
アーデント水和剤	3A	アクリナトリン	1000倍	収穫前日まで	5回以内	5回以内
テルスター水和剤	3A	ビフェントリン	1000倍	収穫前日まで	4回以内	4回以内
トランスフォームフロアブル	4C	スルホキサフロル	2000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
チェス水和剤	9B	ピメトロジン	2000～3000倍	収穫3日前まで	4回以内	4回以内
コルト顆粒水和剤	9B	ピリフルキナゾン	4000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
ウララDF	29	フロニカミド	2000～4000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内

＊ ジノテフラン粒剤：スタークル粒剤、アルバリン粒剤

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください★

農林水産省「農薬情報」　https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/
農林水産省「農薬登録情報提供システム」　https://pesticide.maff.go.jp/
FRAC 農業用殺菌剤作用機構分類及び IRAC 農業用殺虫剤作用機構分類の最新版は
クロップライフジャパン（旧農薬工業会）ホームページ（https:// www.croplifejapan.org/activity/mechanism.html）を参照。

当情報は青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」(https://www.nounavi-aomori.jp/）に掲載しています。

【この情報に関する問合せ先】
青森県病害虫防除所
TEL:017-729-1717　FAX:017-729-1900
〒030-0113　青森市第二問屋町 4-11-6
E-mail：byogaichu@pref.aomori.lg.jp